

チェルノブイリ通信

2011年3月20日

No.83

- 発行 NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26パステル館203号
TEL/FAX 092-944-3841 Email jimu@cher9.to
ホームページ <http://www.cher9.to/>
- 募金口座 郵便振替口座 01770-1-65328
楽天銀行 ジャズ支店(支店番号201)(普)7017104



チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



婚約者を連れて、一年ぶりの再会を果たしたアリョーシャさんと清水教授。今年10月にご結婚されるそうです。おめでとうございます。

特集:ブレスト第10回検診帰国報告(2)

ミンスク市で初めて施行した
甲状腺内視鏡手術
—CMNのもうひとつの貢献とは—

ベラルーシ紹介 歴史編(2)

今さら聞けないチェルノブイリQ&A

事務局日誌より主な活動報告

会員さん紹介コーナー

2011年度通常総会報告

募金者のお名前とメッセージ

ミンスク市で初めて施行した甲状腺内視鏡手術 — 医療支援ネットワークのもうひとつの貢献とは —

日本医科大学外科学講座 主任教授・内分泌外科部長(内分泌・心臓血管・呼吸器外科部門)

清水 一雄



写真上、中)ミンスクでの甲状腺内視鏡手術 下左)医学再教育アカデミーにて、タニロバ教授を囲んで 下右)プレスト州立内分泌診療所にて、2007年に日本医科大学で甲状腺内視鏡手術を受けたアリョーシャさんと再会し、経過を確認

昨年秋の派遣事業の最も大きな成果の一つ、ベラルーシ共和国の首都ミンスク市で初めて施行した、被曝者の甲状腺腫瘍に対する内視鏡手術について報告をさせていただきます。

今回の活動全体については、事務局の川原さんから前号の「チエルノブイリ通信」で詳細な報告がされていますので私は手術の報告と、私が感じたチエルノブイリ支援ネットワーク(CMN)および暖かいご寄付を頂いた多くの有志の皆様のご好意から生まれた本来の目的以外の、質の高い貢献についても記述してみたいと思います。



手術前の触診



ミンスク州臨床病院の外科部長と清水教授

医療システムの確立へ 検査・診断から治療への ステップアップ

私が1999年の「チェルノブイリ支援運動・九州(CMNの前身団体)」時代に支援活動に参加した頃は、現地での甲状腺がん検診を通して触診、超音波検査、穿刺吸引細胞診検査法、染色、検鏡による悪性良性の鑑別、診断法の指導、そして医療物資支援などに協力させていただいておりました。現地医師、コメディカル、パラメディカル(※1)の技術向上に対するモチベーションは高く、また彼らの持つ向上心、技術取得の速度には目を見張るものがありました。

そして医師を教育し、検査技術を指導するという当初の目的をほぼ達成してきたことから、数年前より検査、診断から、治療へと目的を発展。特に私が1998年開発し、現在500例を超えている甲状腺内視鏡手術(※

2)をいかにしてこの国に導入し、普及させるかに努力してまいりました。

甲状腺内視鏡手術の普及を 目指して

現地でのシンポジウムなどを通して本術式を紹介、2006年秋に現地検診で診断した甲状腺がんの患者さんを2007年2月本学に招き手術。そして2009年には現在検診を展開しているポーランド国境に近接するブレスト州都のプレスト市で、やとべラルーシ医学界の歴史で第二例となる甲状腺内視鏡手術を施行するまで漕ぎ着けました。

現地における反響は予想以上に大きく、この時、今後、本活動の中にこの手術の機会を取り入れ、継続し普及させる手ごたえを実感しました。

今回は、ついに首都ミンスク市で最も大きな900床を有するミンスク州臨床病院での手術と

※1) コメディカル、パラメディカル
: 看護師、臨床検査技師など医師以外の医療従事者を示す言葉。

※2) 内視鏡補助下甲状腺手術 (Video-assisted Neck Surgery)
: 1998年に清水教授が開発した手術法。露出された頸部に手術痕がないため、患者の精神的負担を軽減できる。また出血が少ない上、術後の回復も早いので、美容的のみならず、身体への負担も小さい現実性のある方法。

※3) MDL (mobile diagnostic laboratory)
: 国際赤十字連盟による移動検診チーム。プレスト州ではウラジミール医師やアルツール医師らがスタッフとして活躍し、医療機材を積み込んだ検診車で各地を回り、検診を行っている。

なりました。

内視鏡手術に必要な機器類は相変わらず本学から持参するなどの苦勞もありましたが、ここで手術に至るまでには、広島大学原爆放射線医科学研究所非常勤講師、CMN医療顧問でロシア語通訳としても大活躍を

していらつしやる山田英雄さんの偉大な力はもとより、ビクトル・カルヴァノフペラルーシ赤十字総裁、松崎潔ペラルーシ駐在日本大使、ミンスク医学再教育アカデミー、ミンスク第十番病院内分泌科主任教授ラリサ・ダニーロバ教授およびミンスク医学再教育アカデミー所長、ミンスク悪性腫瘍病院院長で甲状腺外科を専門とするユーリー・デミチク教授など多くの方々の理解とサポートの力も大きかったことを付け加えたいと思います。

首都ミンスクにて、はじめての内視鏡手術

今回手術した症例は、アクサナ・ビクトロブナ、1980年11月26日生まれの29歳の女性で、5歳時に被曝しています。我々の活動



た内視鏡手術の雰囲気は以前通信79号で報告しましたが、言葉、機器類、雰囲気すべてが異なる劣悪な環境下で行われ、180分(通常90分前後)もかかった大変ストレスフルな手術でした。

今回も手術室内は混雑し、ロシア語、英語、日本語が飛び交う異様な雰囲気での手術でしたが、二年前の経験が生き、手術時間は93分、出血量は5ミリリットル以下と、ほとんど無血の手術でした。この結果は大学で行っている手術内容と遜色なく、私にとっ

ては満足すべきものでした。翌日の病室訪問では・・・手術翌日、病室を訪問しました。アクサナさんはすでに起きており、周囲の患者さんや見舞いの人たちと笑顔で話していました。声も普通で合併症もありませんでしたし、とても前日手術した患者さんとは思えませんでした。

私が部屋に行くくと突然私のところに飛んできてキスをされました。

うれしいやら驚いたやら・・・でした。手術結果に満足し言葉に表せないくらいと感謝されました。それがこのような形になったのでしよう。

から育った現地の検診団MDL(※3)により発見された甲状腺腫の直径は38×34ミリで、細胞診の結果は鑑別困難(甲状腺がんを否定できず)でした。

一年前、プレスト市で初めて行っ

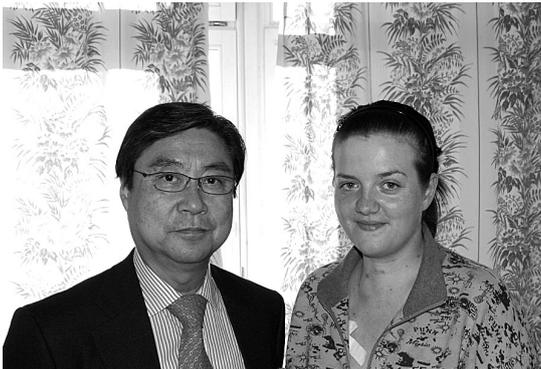
若手医師たちの 今後の活躍に期待

本検診を通してもう一つ以前から感じていた特記すべきことがあります。

それは本検診に数年前から本学学生や若手医師(研修医)が参加し、それをCMNが受け入れてくれていることです。学生や研修医はもちろん自費参加ですが、2003年頃から毎年1、2名が参加しています。今回は学生(第5学年)が3人、研修医が2人、計5人の若手医師および医学生が参加しました。



術後の創をチェック(手術翌日)



術後経過良好、頸部に創がない!



現地医師による超音波検査の指導を受ける
日本医科大学学生と研修医

一つの目的を持った検診および手術という医療行為に早くから参加し、その一員として貴重な海外での医療経験ができたことは、将来に向けて患者さんのことを第一に考える心優しい医師に成長する大きな原動力になると思います。

さらに重要なことは若い時期からこのように人道的に地道な医療支援活動をしているグループが我が国にあるということ。認識し、また他国の医療事情を目の当たりにし、医療を通じての国際交流を経験することが、彼らにとって今後の自国での医療活

動に少なからずプラスとなって還元されるということ。このような環境下で沢山の学生が国際舞台で活躍する優秀な医師に育っていくことを期待しております。

動に少なからずプラスとなって還元されるということ。このような環境下で沢山の学生が国際舞台で活躍する優秀な医師に育っていくことを期待しております。

医療支援が生み出す もうひとつの貢献

CMNは、現地での支援活動以外に、このような形で我が国の若手医師を育成するという大きな役割を果たしていることを改めて認識しています。そしてこの活動を理解し、賛同していただき、

貴重な寄付をいただいている多くの支援者の方々、企業に対しまして、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。この支援があつてこそ私はこのような医療支援活動ができるものと常に思っておりますし、それと同時に我が国の医学学生、若手医師への卒前卒後医学教育にまで貢献していただいていると感謝している次第です。

私の甲状腺内視鏡手術が、次第にベラルーシ共和国でも関心が広まり、浸透していくのを実感しております。2011年も首都ミンスク市での手術が予定されていますが、参加を希望する学生がすでに複数名おります。もちろん本活動を通じてベラルーシの医師、患者さんの為に尽くしたいと思いますが同時に、今後も我が国の若手医師育成に役立てたいと思っております。

CMNならびに暖かいご寄付を頂いた皆様方の多大なサポートに重ねて深く感謝いたします。

幕末ロシア留学生余話

大島 幹雄

初代ロシア総領事として箱館（現在の函館）に赴任したゴシケービッチがまず手がけたことは、ロシア語を日本の中で根づかせることであった。前号で見たように日本人向けの平易なロシア語教科書「ロシアノイロハ」を作るほか、有望な若者たちを集め、ロシア語をマンツーマンで指導していた。時間のかかる普及活動とは別に、ゴシケービッチにとって緊急を要していたのは、ロシア語のスペシャリストである通

訳を日本で養成することであった。

日本とロシアには、国境確定などいくつもの解決しなければならぬ問題が山積みになっていたが、日本の通訳たちはオランダ語や英語はできて、ロシア語ができるものはほとんどいなかった。交渉をスムーズに進めるためにも通訳を養成することは、焦眉の課題となっていたのだ。

こんなとき、ロシア語習得に情熱をもったひとりの若者が、ゴシケービッチの前に現れる。志賀浦太郎という長崎縮佐の大きな庄屋の息子であった。修理のため長崎に寄港していたロシア軍艦の士官からロシア語を学んだ志賀は、通訳としてこの船に乗り込み箱館に来ていた。ゴシケービッチは、

連載

2

紹介 歴史編 ベラルーシ ゴシケービッチ ノート

志賀が熱心にロシア語にとりくむのを見て、領事館付きの通訳として雇い入れ、ロシア語通訳として育てようとする。函館で初代領事としての任務を終え、帰国を目の前に控えていたゴシケービッチは、志賀の才能をさらに伸ばすため、さらには若い人材

をロシア語通訳として登用するため、ひとつのプランを思いつく。ロシアに日本から留学生を派遣することであった。

慶応元年（一八六五年）江戸に赴いたゴシケービッチは、外国奉行との会談の席で、正式にロシアに留学生を派遣することを提言する。

ゴシケービッチの提言を受けて、幕府はロシアに留学生を派遣することを決定、会談の一ヶ月後には七名にロシア行の発令がなされる。もちろんこの七名のなかに、志賀も含まれていた。

ペテルブルグに帰国し、志賀が来るのを楽しみに待っていたゴシケービッチの元に、箱館奉行から「志賀浦太郎については、あなたが厚くご教授してきた者であるので、ぜひとも派遣しようと思ひ、幕府も派遣を決定していたのだが、当人に余儀なきことが起こってしまった、派遣が見送られてしまいましたことをご承知下さい」という手紙が届いた。

志賀がロシア語が少しは出来て、磨けば逸材となることを見抜いていたゴシケービッチの落胆は大きかった。ゴシケービッチは慶応二年、志賀

を除く六人のロシア留学生がペテルブルグに無事着いたことを箱館奉行に報告する手紙の中で、「意気盛んな若者が道理に外れたことをするのは、どこの国でも同じこと、何とか再度志賀を派遣することができないでしょうか」と書いている。彼が志賀に賭けた期待の大きさを知ることができ

る。大きな庄屋の息子としてなにより、由なく育った志賀は、遊蕩に耽り、芸者を妻にして、莫大な借金を作ってしまったことが、派遣中止の原因だといわれる。

ペテルブルグ到着後わずか一年後に幕府が倒れ、結果的にロシア留学生たちはほとんど何の成果もあげることもないまま、途中で引き上げることになった。本格的なロシア語通訳の養成というゴシケービッチの夢は、実現することはなかった。彼の夢を引き継ぐのは、箱館に残ったニコライ大主教であった。彼のもとで小野寺魯一、嵯峨寿安など優秀なロシア語通訳が育っていく。

大島幹雄／ドキュメンタリー作家
昭和二八年宮城県石巻市生まれ
早稲田大学露文科卒業

いまさら人にはきけない?! 意外に怖い

甲状腺ガンになったら…?

チェルノブイリ

タングキ ヴグミ

ついにボクにも
モテ期が…?

わあ、チヨメ美人が
ボクに手をふってる!



え?
どこ?

ああ
マーシャじゃないの
もう着いたの?



わたしたちの世代で
急激に甲状腺ガンが
ふえたのよね

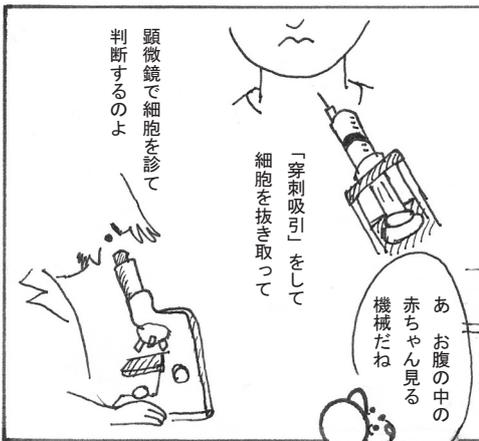
小さいときに
甲状腺ガンが見つかって
大変だったけど
それがこんなに
大きくなって…



マーシャは
チェルノブイリ事故の
ほんの1ヶ月前に
産まれたの
そう
今24さい

ベラルーシから
来た、めいっ子の
マーシャよ

Здравствуйте!



顕微鏡で細胞を診て
判断するのよ

「穿刺吸引」をして
細胞を抜き取って

エコー(超音波装置)で
中がどうなってるかを
映してみて

あ お腹の中の
赤ちゃん見る
機械だね



検査は…
お医者さんが、
まずはれてないか
どうか触ってみて



小さい子のほうが
放射性物質を吸収
しやすかったんだらうね

今でもわたしの
友達で発症する
子がいるのよ



で、
もしそれがガンが
見つかったらどうするの?



わたしみたいに、
早く見つけるってことが
とっても大切だからね

甲状腺ガンは進行が
おそくて、すぐに死に
つながる病気ではないから



ああ、
『医療支援ネットワーク』が
ベラルーシでやっているのは、
まさにこの流れだよ

よく気がついたね
日本と現地の医師や
技師とが現地で一緒に
この検診を行うことで

がんの患者さんを
早期に見つけることと
現地に医療技術を
伝えるという
活動をしているのよ



ところで、人間とコウノトリが
親戚同士っておかしいでしょ

え? なんのこと?



それに、
今は元気な人でも、これから
放射能の影響が出ないとは
かぎらないからね

そっか、手術してそれで
おわりじゃないんだね

そうね、わたしも
これから元気な赤ちゃんを
産みたいっていう夢があるん
だけど、不安じゃないと
いえばウソになるわ



手術して
切り取らなきゃ

マーシャも
切ったの?

うん

全部切っちゃって、
もう自力ではうまく
ホルモンをつくれなから、
一生ホルモン剤をのま
なきゃいけないのよ

事務局日誌より 主な活動報告



日々の活動の様子は、HPの「事務局スタッフブログ」でも紹介しています。

<http://www.cher9.to/>

◆11月27日 NGOカレッジにてブース出展



説明中です

FUNN主催の連続講座「NGOカレッジ」にてブースを出展し、活動紹介などを行いました。講座の受講生を対象としたNGO体験プログラム(通称ボラタン)にて、CMNでも3名のボラタン生の受入が決まりました！簡単な自己紹介をしていただいていますので、ぜひご覧ください。

◆12月18日 ベラルーシ料理を作って食べる会



ドラーニキを作っています

(財)よかトピア記念国際財団の助成を受けて、古賀市中央公民館にてベラルーシ料理会を開催しました。メニューはボルシチ、ドラーニキ、サラダ、林檎のキセーリの4品。レシピを見ながら楽しく調理ができました。おいしい料理で身体もあつたままり、楽しい時間を過ごすことができました。

◆1月14日 グリーンコープ共同体の学習会



約140名が参加！

福岡市で開催されたグリーンコープ共同体の脱原発学習会にて、チェルノブイリ原発事故や団体の活動についてお話をさせていただきました。講師は日本医科大学の清水教授と理事長の河上の2名。講演後の質疑応答も活発で関心の高さが伺えました。

◆2月19日 ブレスト第10回検診帰国報告会



講演のようす

2011年度通常総会に続き、昨年の検診団・調査団派遣事業の報告会を開催しました。広島よりロシア語医療通訳の山田英雄さんをお招きし、ミンスクでの内視鏡手術やブレストでの甲状腺がん検診について、様々なスライドを交えてお話していただきました。

◆2月20日 ステップアップセミナーに参加



最後のふり返りをやっています

ボラタン生の平川まみさんとともに、FUNN主催の講座「ステップセミナー」絶対知っておきたい良い団体の作り方」に参加しました。会議の進め方や人材の発掘、そして団体の抱える悩みに対する公開相談会など多様な内容で、今後の運営に活かしていきたいと思えます。

ボラタンさん、いらつしゃ〜い

平川まみさん



北九州市立大学3年生の平川まみです。昔から環境やボランティアに興味があり、大学では環境工学を専攻しています。今回、友人からの誘いで急ぎよボラタンに参加する事になりましたが、新しい発見や学びが多く、とても楽しく活動させていただいています。短い間ですが、これからもよろしくお願ひします。

藤野愛さん



九州大学の大学院で経営学を専攻しています藤野愛と申します。現在、ボラタン生として、広報業務を担当しております。先日、通常総会と帰国報告会に出席し、改めて活動内容が豊富であることを知り、感銘を受けました。今後も、様々な活動に参加することで、貴重な経験・知識を習得したいと考えております。短い期間ではありますが、どうぞよろしくお願ひ致します。

平川可南子さん



九州大学2年生の平川可南子です。大学では、臨床検査技師になるために勉強しています。会員の方の紹介ページを担当させていただきました。とても興味深いお話が聞けてよかったです。3月までの短い間ではありますが、しっかりと頑張っています。短い間ですが、よろしくお願いいたします。

私も応援しています!
**会員さん
紹介コーナー**

Vol.11

このコーナーでは、チェルノブイリをともに支えたいと思っている会員の皆さまより、活動への思いや現地へのメッセージをお聞かせいただきます。

取材/平川

本日の会員さん

いぐろ
井畔 真理子さん
〈福岡県福津市〉

自分が知ったことを、
他の人たちにも伝えていきたい。



で働いている方たちは、被曝されていると聞きます。私たち市民には知らされていない事実が沢山あるんです。これからも、自分が知ったことは、周りの人にも伝えていきたいと思っています。そうすることによって、未来は少しずつでもより良い方向に変わっていくと信じています。(談)

チェルノブイリ医療支援ネットワーク(CMN)を知ったきっかけは、ナターシャグジーさんのコンサートでした。当時ナターシャグジーさんのことは知らなかったのですが、友人に誘われて参加しました。彼女は幼少期にチェルノブイリの事故により被曝しながらも、歌手としての活動とともに事故の状況を伝える活動をしていらつしゃいます。その話は、生々しくてとても説得力がありました。事故の状況やその後のお話を聞いて、とても怖いと感じました。

ちょうどその頃、佐賀県の玄海原子力発電所のプルサーマル発電が始まるうとしている時期で、原発にとっても興味を持つていたので、その後CMN事務局を訪ねて行きました。チェルノブイリの事故のことは、かすかに記憶に残っているくらいで、当時はそんなに大変な事とは思っていませんでした。でもCMNで事故後の写真を見せていただいたりして、その大変さを知りました。私は当時、「みらい実行委員会」という玄海原発のプルサーマル発電に反対する市民活動に関わっていて、CMNと協力し合えたらという思いから支援をさせていたくらいになりました。みらい実行委員会では、原発についての勉強会を行ったり、映画の上映会を

行ったり、署名を集めたりしました。福岡市内で行った大きなイベントのときには、CMNのご協力によって、チェルノブイリ原発事故のパネルの展示などを行うことができました。その後、結局プルサーマル発電が始まってしまいましたが、現在でもあきらめずにさまざまな活動を続けています。私自身は、オーガニックカフェ(※下記参照)を始めたりと忙しくなり、今は活動に参加できていないのですが、原発の怖さなどを一緒に伝えていけたらという思いはあります。事故の経験を生かすためにも、原発は廃止の方向に向かうべきだと感じます。そうでなければ、またこのような事故が繰り返される事になるかもしれません。たとえ事故が起こらなくても、原発



◇Cafe & Gallery 古小路◇

日替わりで色々なお店がオープンしています。
井畔さんのお店は金曜日です(営業時間11:00~16:00)。

momo ~ナチュラルスイーツ工房~

オーガニックドリンクとマクロビスーツ

住所:福津市津屋崎4-34-1



2011年度

総

会

報

告



当日の様子

●日時：2011年2月19日(土)

17時30分～18時10分

●場所：あすみんセミナールーム
(福岡市中央区大名4-6-46、5F)

2011年度

【海外事業】

●第30次調査団の派遣
(5月16日～5月25日)
支援金の贈呈、関係者への取材を実施。

(詳細は「チェルノブイリ通信」81号に記載)

●プレスト第10回検診団

第31次調査団の派遣
(10月3日～10月9日)

プレスト市での甲状腺がん検診、清水一雄医師による甲状腺内視鏡手術、支援金、支援物資の贈呈、医学シンポジウムの開催、関係者への取材等を実施。
(詳細は「チェルノブイリ通信」82号に記載)

●福祉工房「のぞみ21」支援

商品仕入(年2回)、ウェブサイトに、会報を通じての紹介・販売、イベント等での紹介・販売、スタッフへの取材を実施。寄付金\$2417(09年9月～10年3月分の「のぞみ21カンパ」を贈呈。

●NGO「コンフィデンス」支援

関係者への取材を実施、活動運営カンパ\$900を贈呈、団体ウェブサイトに紹介ページを作成。

【国内事業】

●報告会、イベント等の開催

●マトリョーシカ絵付け会

●ヘアサロン・スネガビーク

●ベラルーシ料理を作って食べる会

●講師派遣

●写真パネル展

●イベント参加

●会報「チェルノブイリ通信」の発行

●物品の販売

(支援コーヒー・紅茶、書籍等)

●情報発信(メルマガ発行等)

●その他

●原稿執筆

●ボランティア受入(のべ29名)

●理事会の開催(毎月1回)

●助成金の申請

●セミナー等への参加、など

福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」にて2011年度通常総会を開催し、昨年度の事業、収支決算報告及び、今年度の事業計画、収支予算についての協議・承認が行われました。
総会報告資料は団体ウェブサイトでも公開しているほか、ご希望の方へはお送りしていますので、事務局までご連絡下さい。
http://www.cher9.to/kako_katudo.html

2010年度事業報告

2011年度事業計画

【海外事業】

●プレスト第11回検診団
第32次調査団の派遣

●甲状腺がん検診の実施

●甲状腺内視鏡手術の実施

●標本整理、アトラス作成

●支援金、支援物資の贈呈

●プロジェクト評価

●福祉工房「のぞみ21」支援

●工房運営カンパの呼びかけ

●雑貨の仕入

●国内での紹介・販売

●NGO「コンフィデンス」支援

●支援金の贈呈

●関係者への取材

●会報等での活動紹介

【国内事業】

●報告会、イベント等の開催

●マトリョーシカ絵付け会

●ヘアサロン・スネガビーク

●会報の発行

●年度内に4回発行
(3、6、9、12月)

●PDF配信の呼びかけ

●その他

●支援コーヒー・紅茶の販売

●情報発信

●講師派遣、パネル貸出

●イベント参加

●他団体との連携促進

●会員拡大、資金調達

●ボランティアの募集・受入

●会議の開催

●入会金・年会費
入会金0円、年会費3千円

●正会員

●賛助会員
入会金0円、年会費0円

●会員数(※2月19日現在)

●正会員

●個人：44名

●団体：2団体

●賛助会員

●個人：960名

●団体：102団体

2011年度運営体制

理事長 河上雅夫
副理事長 寺嶋悠
理事 小山浩一、吉本美貴
和田幸策、川原秀之
監事 津島朋憲
事務局 川原秀之、三島さとこ

国内外での活動写真



①5月のベラルーシ訪問。工房「のぞみ21」にて刺しゅうのモチーフ集を見せてもらう。②10月の医療検診団、調査団派遣。プレスト市での甲状腺がん検診の様子。③8月のマトリョーシカ絵付け会には15名が参加。④今回も大盛況だったヘアサロン・スネガビーク。

2010年度収支決算書(2010年1月1日～2010年12月31日) 及び 2011年度収支予算書(2011年1月1日～2011年12月31日)

科目	10年度決算	11年度予算
経常収入の部		
会費・入会金収入	144,000	150,000
事業収入		
のぞみ21支援	441,590	500,000
報告会・講演会等開催	20,000	15,000
イベント参加	254,950	185,000
コーヒー販売	1,054,250	1,000,000
その他(※1)	38,039	0
補助金・助成金収入	200,791	685,000
寄付金収入		
活動支援金	7,384,900	7,500,000
のぞみ21カンパ	237,500	200,000
雪だるま3号カンパ	209,000	150,000
雑収入	25,792	1,000
経常収入合計	10,010,812	10,386,000
経常支出の部		
事業費		
検診・調査・スタツア	2,540,942	3,000,000
のぞみ21支援	619,577	550,000
会報発行	1,347,290	1,300,000
報告会・講演会等開催	32,956	14,000
イベント参加	152,700	165,000
コーヒー販売	731,744	680,000
その他(※2)	6,344	25,000
事業費計	5,431,553	5,734,000
管理費		
給料手当	2,795,500	2,700,000
法定福利費	282,895	300,000
旅費交通費	135,625	150,000
通信運搬費	124,136	110,000
消耗什器備品費	51,348	30,000
消耗品費	59,297	50,000
印刷製本費	50,140	50,000
水道光熱費	101,753	100,000
支払地代家賃	504,000	504,000
支払手数料	176,585	200,000
保険料	21,200	45,000
諸会費	56,000	60,000
法人住民税及び事業税	81,000	81,000
その他(※3)	14,520	55,000
雑費	45,811	10,000
雑損失	1,600	2,000
予備費		76,000
管理費計	4,501,410	4,523,000
経常支出合計	9,932,963	10,257,000
経常収支差額	77,849	129,000
当期収支差額	77,849	129,000
前期繰越収支差額	7,134,184	7,212,033
次期繰越収支差額	7,212,033	7,341,033

(単位：円)

(※1) 講師派遣・パネル展事業、書籍販売事業
(※2) 講師派遣・パネル展事業、インターネット事業、書籍販売事業
(※3) 会議費、交際費、研修費、租税公課、為替差損益

たくさんのご支援を ありがとうございます。

(順不同・敬称略)

相川美智子 浅原望樹 石橋啓子 稲吉清子 井上礼子 岩川親良 岩本洋子 上野三佳子 江越知佳子 榎本みつ枝 大石和子 大河原しおみ 太田千賀子 大谷正穂 大淵恵津子 岡田敦子 緒方君江 緒方佳子 小川伸枝 小川令美 沖渡辺中西 小野尚子 小野直子 飯屋園今日花 泉介・祐・幾代 河口友子 川久保美和子 川原美子 木村弘子 国川英美 桑村綾美 古賀えみ子 小島輝巳 佐藤久美 佐藤和子 佐村りつこ 重藤馨子 渋谷けい子 清水雄 下田豊文 須貝純二 砂村よしの 関根敏子 泉工医科工業株式会社 高田正世 高山幸子 武田ひとみ 田代トヨミ 田中啓 田中香代子 谷口美江 谷村禎一 牧子 種和子 チェルノブイリ友の会を通じてご支援くださった皆さん 鶴園直美 遠矢悦子 鳥居勝代 長尾景子 仲宗根明美 長棟かおる 中村順子 柳楽英美枝 西嶋香穂子 日蓮正宗防府教会 日本医科大学学長 田尻孝 野中孝子 早川もと子 林田洋子 引田良子 平島 憬子 深堀ミチ子 藤本由紀 ふるかわ歯科・小児歯科医院 前田晶子 松井由美子 松尾博文 丸山さより 三木悦子 実取久美子 宮田京子 村上和代 村山敬子 森下須美子 守山美佐子 山下明美 山田美佐子 山本潤子 山本裕子 吉村淳子 渡邊幸之新

【北海道】2名 【東京都】8名 【神奈川県】2名 【埼玉県】1名 【静岡県】1名 【三重県】2名 【兵庫県】1名 【鳥取県】1名 【島根県】4名 【岡山県】2名 【広島県】3名 【山口県】9名 【福岡県】33名 【佐賀県】2名 【長崎県】4名 【熊本県】8名 【大分県】2名 【鹿児島県】2名

●マンスリーサポーターの皆さん

相川靖 相羽美香子 麻生絹代 石本祥二郎 磯道綾子 一瀬和美 稲田照子 岩口香織 上田英子 植田清子 内野和美 内野千鶴子 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 大場満 片岡八重子 金山涼子 紙森優子 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 古賀輝洋 後藤宇企子 財津悠子 斉藤美代子 坂口馨子 櫻井

合計	1,284,087円
活動支援金のぞみ21カンパ	1,133,087円
雪だるま3号カンパ	83,000円
雪だるま3号カンパ	68,000円

美喜子 佐竹早苗 佐藤二江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 鈴木弘子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利子・朱加 綱脇牧子 坪川裕子 富永隆史 友景忍 鳥井原桐子 鳥原良子 永江之子 長尾景子 永尾ゆかり 永野沙智子 中村洋子 榑崎悦子 西井えりな 西首延子 丹羽道代 納富育代 平原久子 廣松初美 福井初子 福本勅子 藤本孝子 淵田三輝 古川恵子 前田靖子 松尾智恵子 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 村田聡子 村西美由紀 室屋芳乃 森川キミエ 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 吉野陽子 吉村啓 LEE E&ART 青空 東海林由紀 渡邊真志子 計105名(匿名含む)

(2010年11月1日〜2011年1月31日までに募金して下さった方ならびに「のぞみ21」雑貨支援コーヒー・紅茶の購入を通じて活動を支援して下さいました方です。通信にお名前を紹介することを許可いただいた方の掲載しています。)

編集後記



今号より最終ページのレイアウトを変更し、会員の皆さまからのメッセージに対するコメントを掲載しています。紙面についてのご意見やご感想などありましたら、お気軽に事務局までお寄せください。もっともっと読みやすい誌面づくりを目指して、これからも頑張ります。(笑)

● コーヒー・紅茶キャンペーンのご案内 ●

期間中、商品(コーヒー・紅茶、のぞみ21雑貨等)を合計8,000円以上ご注文いただいた先着20名の方に、下記の商品の中から好きな1品をプレゼントします!

期間 3月15日(火)~4月15日(金)まで

◆ 下記の中からお選びください ◆

- ・カルロスさんのコーヒー(粉/豆)
- ・インタグコーヒー(粉/豆)
- ・トセパンコーヒー(粉/豆)
- ・ブレンドコーヒー(粉/豆)
- ・ソルコーヒー(粉/豆)
- ・南インド紅茶(リーフ/ティーバッグ)



★特にご指定のない場合は、「南インド紅茶(リーフ)」をプレゼントさせていただきます。

● 会員の皆さまからのメッセージとスタッフコメント ●

いつもたのしみにコーヒー、紅茶頂いています!

ありがとうございます!わたしもよく支援コーヒーを飲んでいきます。気軽に出来るチェルノブイリ支援、いいですね。

他の方のメッセージをみて、ツーンとききました。

わたしも劳いのメッセージなどを読むと、嬉しくてツーンとききますよ!

カンパの金額は自由ですが、知っているつもりで、いざとなるとわかっていなくて、すみません。

金額はご自由に、お好きなときにお好きな金額をカンパしていただけると嬉しいです!!

カンパ、ほんの少しですが、ずっと続けたいと思っています。

ありがとうございます!必要なところへ必要な支援を届けられるよう、日本の専門家、現地関係者と協力しながら、今年もスタッフ一同、知恵をしぼって頑張ります!!